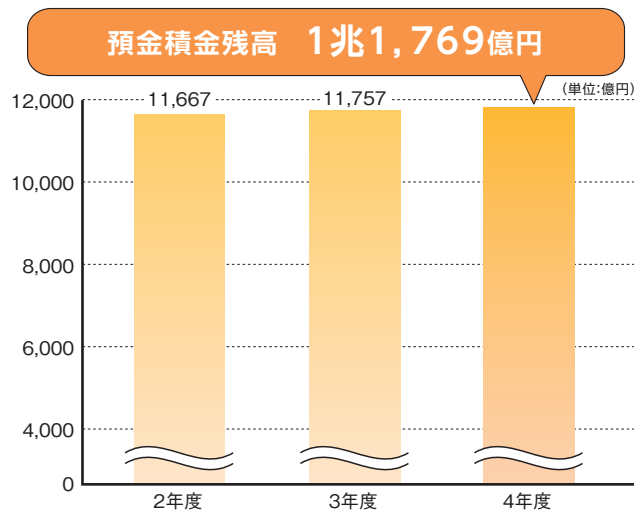


事業の概況

預金積金の状況 (預金積金残高の推移)

預金積金の期末残高は、1兆1,769億円となり前年度から12億円増加しました。(増加率0.10%)

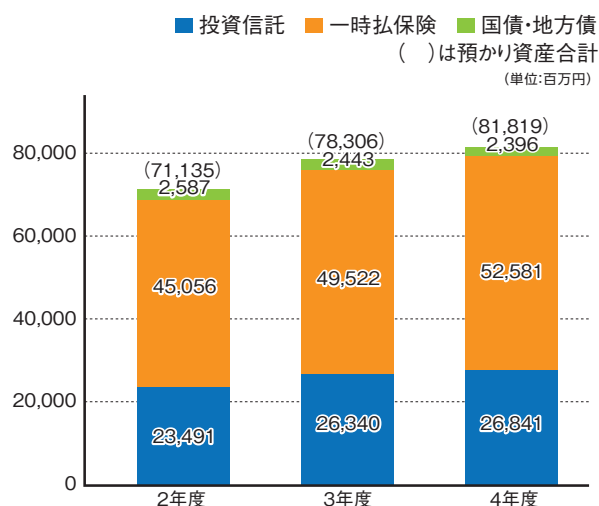
内訳は、要払性預金が221億円の増加、定期性預金が208億円の減少となりました。



預かり資産の状況

国債・地方債、投資信託、一時払保険(個人年金・終身保険)を合算した預かり資産残高は、818億円となりました。

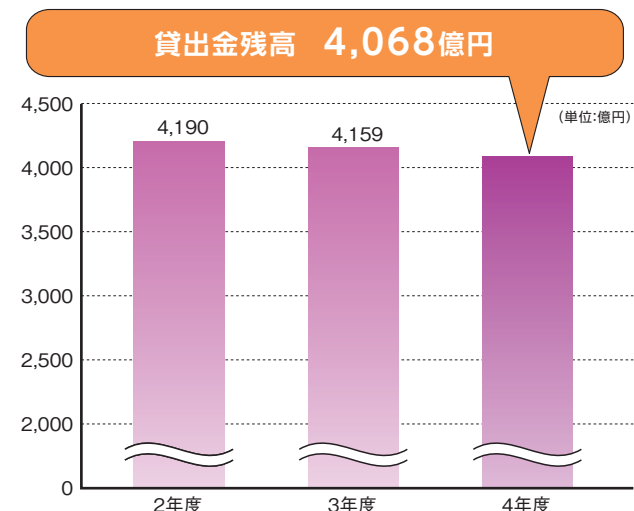
金融商品の品揃え充実やマネーアドバイザー(金融商品専門担当者)の育成・配置により、今後もお客さまのニーズに合致した各種金融商品の販売に努めてまいります。



貸出金の状況 (貸出金残高の推移)

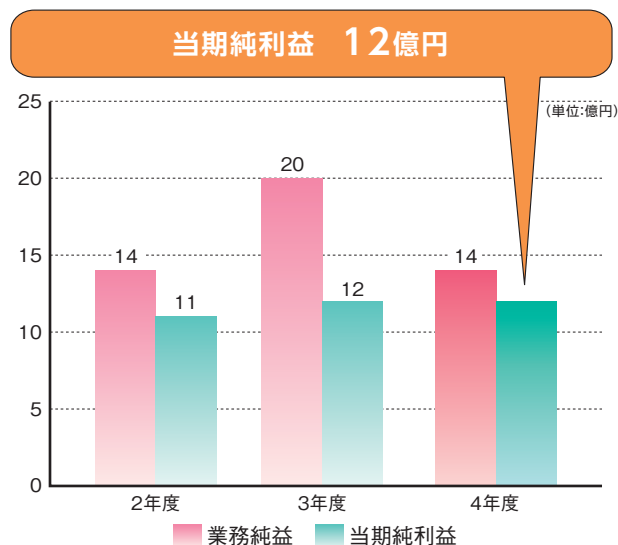
貸出金の期末残高は、4,068億円となり前年度から91億円減少しました。(減少率2.20%)

内訳は、個人向けが23億円の減少、事業性が68億円の減少となりました。



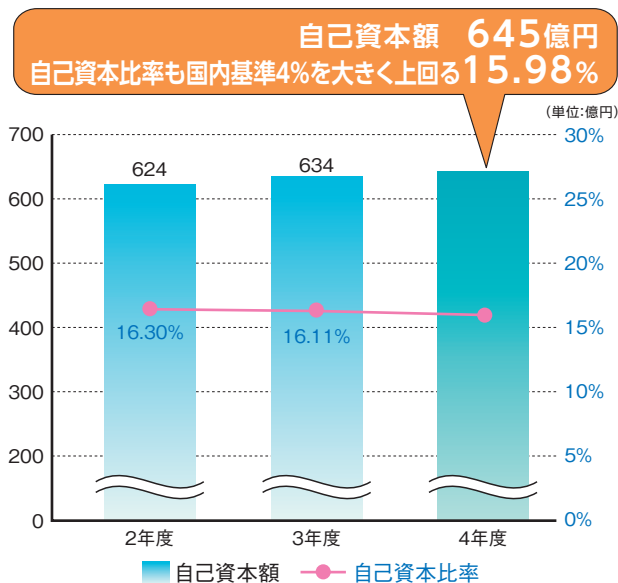
収益の状況（業務純益と当期純利益の推移）

金融機関の営業利益に相当する利益をあらわす業務純益は14億15百万円となり、最終の税引後利益をあらわす当期純利益は12億円となりました。



自己資本比率の状況（自己資本比率等の推移）

単体自己資本比率は、15.98%（前期比0.13ポイント低下）となり、国内基準4%を大きく上回り当金庫の経営が健全かつ安全であることを示しています。安定した利益確保の継続により、リスクへの備えとしての自己資本額は645億円にのぼります。



信用金庫法開示債権及び金融再生法開示債権残高・構成比

不良債権比率は、3.11%となりました。

今期も償却とともに適正な引当を実施しており、厚い内部留保とあわせて当金庫の不良債権に対する備えは万全です。

